えーる！

平成30年号

まちづくり応援団 えーる

もくじ

第39号

二年詣りとしゅうニャン恋みくじ特集

第40号

雪の漢陽寺と初釜特集

第41号

子たぬきのパンとSora Caféのその後特集

第42号

長野山山開き特集

第43号

いっておかえり鹿野市特集

第44号

夏の山野草特集

謹賀新年！



えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL:
http://yell.link/
Mail:
mail@yell.link

二年参りから、新年あけましておめでとうございます♪

新年あけましておめでとうございます。ついに平成も30年。今年、年男・年女の方もいらっしゃるのではないでしょうか。

そんな平成30年最初の「えーる！」は、二所山田神社の二年参りの取材から始めたいと思います。



毎年恒例になりつつあるこの取材。例年通り、劇団「わ」様によるぜんざいの炊き出しが行われました。炭火でお餅を焼き、甘いお汁につけてふるまわれたぜんざいが、寒い中じんわりと体を温めてくれました。おかわり！とはさすがに言えませんでしたが、二年参りをする方々を温めてくれる、やさしい炊き出しでしたよ。

また、左下の写真にあるように、今年はところうにLEDライトが添えられていたんです。ゆらめくライトの光は、本物の炎のように参道の両側でゆらめいていましたよ。

カウントダウンが0になり、新年を迎えた後には、恒例のクジつきもちまきも行われました。なかなか当たるものではないとわかっていても、クジがついているとワクワクしますね♪

そんな二年参りでしたが、今年はふとした気づきがありました。

それは、参拝客の年齢層です。今年は特に若者がたくさん参拝しているように感じました。もちろん、例年ある程度参拝されていますが、今年は特に多かったと思います。



鹿野の未来を担う世代がちゃんといるんだな、と思うと、なんだかうれしい気分になってきます。いつかこの若者たちの中から、将来の鹿野を作っていくリーダーが現れるかもしれませんね！

しゅう"ニャン"市と、おみくじ！

初詣のときによく引くものといえばおみくじですね。皆様の今年の運勢はなんだったでしょう？　ちなみにわたしは中吉でした。

このおみくじ、鹿野が生産量日本一であるのはご存じかと思いますが、周南市役所でも、おみくじが作られているんです。それが今回取材した、「恋するしゅうニャンみくじ」なんです。

このおみくじは、どんな思いで生み出されたのでしょうか？　製作者である、周南市役所の女性職員で構成された「しゅうニャン開運女子部」の部長、弘中志保（ひろなかしほ）さんにお話をうかがってきました！

おみくじに注目したのはなぜ？

周南市には「ふく（福）」「たこ（多幸）」「はも（鱧）」とたくさんの開運キーワードがあり、周南という文字の中にも「吉」と「幸」があるんです。「開運のまち」という面からも周南市をＰＲするために、おみくじを使った企画を考えたそうですよ。

このおみくじのターゲットは女性。理想的なイケメンをおみくじにしたらどうだろう!?　という考えから、当初４人で進めていた企画に、絵のうまい職員を加え、５人で企画を進め始めたのだとか。

業務の合間を縫って、月２回程度「女性が男性に言われてみたい言葉はなんだろう」「どういうレイアウトでおみくじを作ろう」と頭を悩ませ、印刷しておみくじの形に整えて、ついに完成したのが左のようなおみくじなんですよ！　15人の理想的なイケメンがささやく言葉は、全部で36種類にもなるんですよ。こうして完成したおみくじは、二所山田神社の宮本宮司さんによりお祓いを受け、昨年の11月26日に徳山で開かれた「しゅうニャン開運フェス」で初お目見えしました！　７７７個限定で作られた缶バッジとともに配布され、たくさんの方がおみくじを引かれていきましたよ。周南市の成人式でも配布され、たくさんの新成人の皆様にもおみくじの存在がＰＲされたほか、今後開催予定のイベントでも配布される予定になっています。

「今後、周南市をもっと多くの人に知ってもらいたい」と弘中さんは言われていました。このおみくじがもっと色々なところで配られ、鹿野の誇る日本一が、もっとたくさんの人に知ってもらえると素敵ですね。



ちなみにわたしの男運は「小吉」でした。

しゅうニャン市ってなに？

ところで、先ほどから出てくるのは周南ではなく「しゅうニャン」という言葉。これはいったい何なのでしょうか？

これは、周南市が「人がネコのように自由にのびのびと、居心地よく暮らせるまち」すなわち「人がネコになれるまち」であるということから、しゅうニャン市という愛称をつけたものなんです。

昨年の1月22日から始まったこの企画ですが、共にしゅうニャン市を盛り上げる企業・団体「しゅうニャン市パートナーズ」には、鹿野の企業・団体もたくさん参加されているんですよ。みんなで一緒にしゅう「ニャン」も盛り上げていきましょう♪



11月26日にわたしも限定缶バッジをもらいました。わたしのナンバーは238番ですよ♪

雪の漢陽寺を訪ねて



えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL:
http://yell.link/
Mail:
mail@yell.link

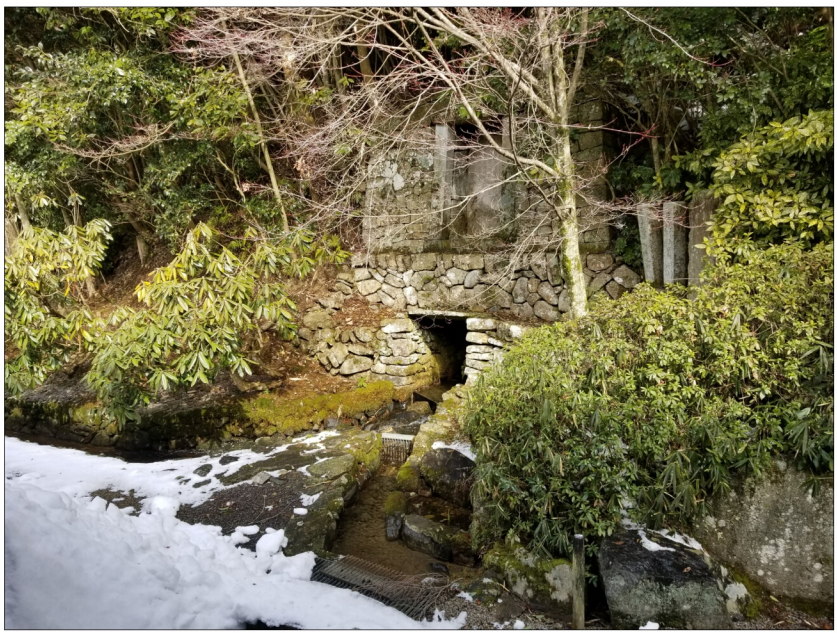
雪降る中で見る曲水の庭と、変わらない潮音洞

今年の冬は、ひどい寒波でしたね！　雪も解けて少しずつ春に近づいているようですが、まだまだ寒さも厳しい毎日が続いていますね。

今月の「えーる！」は、そんな雪が降る中、漢陽寺さんを訪れた時の様子をお伝えさせていただきます。

まず目に入ったのは、著名な作庭家である重森三玲（みれい）氏によって作られた「曲水（きょくすい）の庭」です。この庭は、水を使わずに、石や砂を使って山水の風景を表現する、枯山水の様式に基づいて造られています。しかし、曲水の庭はそのルールにのっとらず、潮音洞からの水を流し、木やコケも植えられている、珍しい造りをしているんですよ。

雪の降りしきる境内はとても寒く、水溜まりは底まで凍り付いているほどでした。そんな中でも、お寺の裏にある潮音洞の水は、いつもと変わりなく流れていたんです。縁側は氷が張り付いて滑りそうだったのに、潮音洞の周りはいつもと変わらず水が流れていました。曲水の庭は雪で新しい顔を見せてくれていたし、潮音洞は変わらない顔を見せてくれていたんですよ。

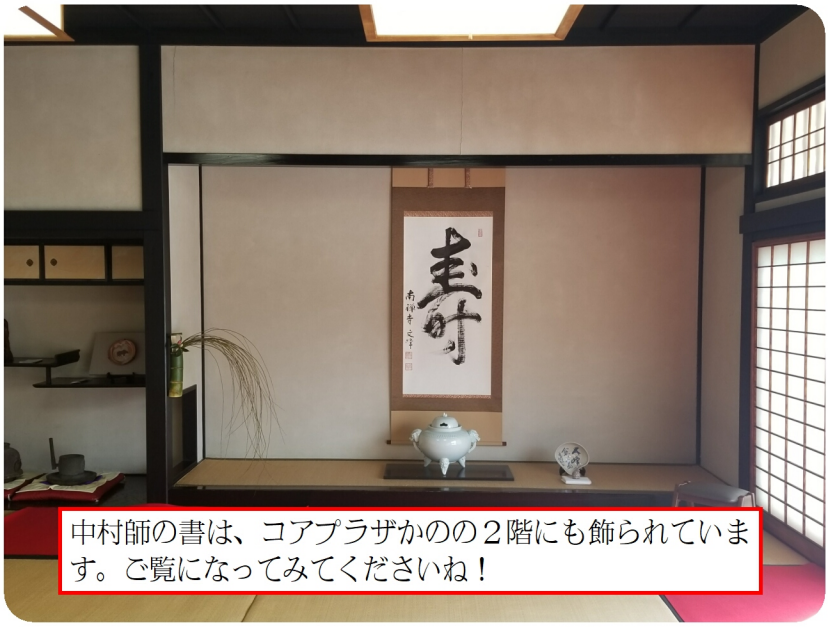


初釜に招かれました



わたしが漢陽寺さんを訪れたのは2月11日でした。この日は、新年初めての茶事を行う「初釜」の日でした。ご縁があり声をかけてもらって、お茶の席に招いていただいたんですよ。

生まれて初めてこのような場を体験したので、とても緊張しましたが、良い経験をさせていただきました。その様子を、お伝えいたします。



中村師の書は、コアプラザかのの２階にも飾られています。ご覧になってみてくださいね！

お茶の席は、木村市長をはじめ市議の方などをお招きして行われました。部屋の中には、鹿野出身で、今は京都・南禅寺の管長を務めておられる中村文峰師の書や、茶器もあり、思わず襟を正したくなるような空間でした。

お茶の接待を「潮陽会」の皆様にしていただきながら、慣れないながらも無事初釜を終えることができました。正座すればすぐ脚がしびれてしまうという情けない状態でしたが、次に招かれる機会にはもっときちんとできればと思います。



会が終わった後、接待の所作について勉強する時間をいただくことができたのですが、これがまた難しい！　お盆を持つ高さ、ふすまを開ける広さ、畳の歩き方から、おじぎ、立ち方まで、非常にたくさんあるんですよ。

しかし、こうした所作は、相手に失礼のないよう、礼儀の一つ一つがきちんとした形になって伝わっているものなんだな、と感じました。

動作をなぞることばかりを考えてしまいましたが、今度は動作の意味をきちんと考え、実践してみたいと思います。

鹿野たっぷりのパンと癒しの時間



えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL:
http://yell.link/
Mail:
mail@yell.link

桜も咲いて、すっかり春ですね！　今月の「えーる！」は、以前にご紹介したお店の「その後」を覗いてみたいと思います。

まずは、昨年11月号でご紹介させていただいた、うめざわしのぶさんの「子たぬきのパン」のご紹介です。昨年10月号でご紹介した中西喜熊さんが関わり、昭和35年に上棟された家を、お店としてリフォームされ、現在プレオープン中です。

お店の前には、おなじみの「子たぬきのパン」の看板がお出迎えしてくれました。いざ、入口の戸を開けてみると……小麦粉の焼ける、いい匂いがしてきます！　ちょうどパンを焼かれていたところのようでした。

「子たぬきのパン」の作るパンは、おいしい小麦粉、そして鹿野の水と空気で作られた、鹿野がたっぷりのパンなんです。そんなパンと、鹿野ファームのハムを使ったハムエッグパンが、店頭に並んでいました。このパンはおいしいに決まっています。

昼食の後でしたが、焼きたてのパンの匂いもあって、ついつい買って帰ってしまいました。

そして、このお店の魅力はパンだけではありません。以前「子たぬきのパン」の取材をしたとき、お客さんがくつろぐことができるお店を作りたい……という思いを聞かせていただいたのですが、二階に上がってみて、まさにその通りの素敵な空間ができあがっていました！　上の写真が二階の様子ですが、思わず寝転んでう～んと手足を伸ばしたくなるような、のんびりとした空気を味わうことができました。外からの日差しが差し込む窓や、暖かい色合いの照明も素敵ですね♪

のんびりとした時間とおいしいパンの楽しめる「子たぬきのパン」は、渋川の農家レストラン「たぬき」のそばにあります。5月10日に開店予定なので、是非足を運んでみてくださいね。



SORA　CAFEのおいしいひと時



続いてご案内するのは、昨年7月に取材させていただいた、大田屋さんの店内で好評営業中の「SORA　cafe」さんです。店主の齋藤さよ子さんが作られている、鹿野の茶葉を使って作られた「かの紅茶」が飲めるお店ということでご紹介させていただいたのですが、現在はそれだけではなく、しっかりと食事のとれるお店になっているんですよ！　上の写真にあるハンバーグドリアは、鹿野ファームの豚肉で作った、豚肉のハンバーグなんですよ。よく見る牛肉のハンバーグとはまた違った味が特徴です。

肉団子のような小さいハンバーグがいくつも入っているドリアは、ちょうどこの時、口の中を怪我していてあまり固いものを食べたくなかったわたしには、とてもありがたかったです。

このドリアの他、月替わりで内容の変わる「SORA　cafeランチ」や、鹿野ファームの豚肉を堪能できるとんかつプレートなどもあり、ご飯をしっかり食べたい方も満足いただけると思いますよ。

また、お持ち帰りもできるピザには、なんとわさび漬けを使ったものも用意されています。大田屋さんで売られているわさび漬けはそのままでもおいしいですが、こんなふうにも使えるんですね。ピザらしからぬ、ほんのりと辛い味を楽しんでみるのも、鹿野らしさがあふれていて素敵ですね♪

その他、ホットドッグ、カツサンドなども販売されています。すっかり暖かくなったので、外で風を感じながら食べちゃう……なんていうのも、ピクニック気分が味わえていいですね♪

「SORA　cafe」さんは、金・土・日曜の昼11時から夕方4時まで営業しています。もちろん、かの紅茶も変わらずおいしいですよ。



晴天の長野山山開き



えーる！

発行：
まちづくり応援団えーる
URL:
http://yell.link/
Mail:
mail@yell.link

１０１５メートルの山開き、今年も開催です！

田植えも始まり、もう春というより初夏の時期になってきていますね。今月の「えーる！」は、毎年４月29日に行われている長野山の山開きをご紹介いたします。

車とすれ違わないように祈りながら、山道を数十分。長野山の標高は、なんと１０１５メートルもあるんです。山口県の中でも、かなり高い山なんですよ。

そしてたどり着いたロッジ。上の写真をご覧ください！　雲一つない快晴です。周りにさえぎるものがない場所なので、空がとても近く感じられますね。

そんなロッジで始まった山開き、まずは、二所山田神社の宮本宮司さんによる安全祈願祭から始まります。

外では鹿野ファームさんや、長野山生改連さんによる食事、手作り小物の販売や、少し離れた広場では、シイタケの駒打ち体験が行われたりと、とても賑やかでした。

ご高齢の方から子ども連れのファミリーまで、たくさんの方が思い思いの時間を過ごされていましたよ。

また、レクリエーション施設の中では、大道理からいらっしゃったマジシャンによるマジックショーや、菊川のマンドリンクラブによる演奏会、須々万在住で、鹿野にも何度も足を運んでくださっている今井さんによる「ありがトンボ」など、たくさんの催しが開かれていたんですよ。







会場には、素敵なものがたくさん！



表で紹介した他にも、山開きではたくさんのイベントが開かれていました。安全祈願祭の後、木村市長も加わって餅つきが行われ、つきたてのお餅が配布されました！　ロッジ入口までずらっと並んだ列が、参加者の多さとイベントの人気を物語っているようでした。

山口県は餅まきの盛んな地域なんですが、餅をつく様を見ることができるというのは、貴重なのではないかなと思います。

餅つき





豚汁

マイ箸とマイお椀持参であれば無料の豚汁のふるまいもありました。鹿野産の豚肉と野菜をたっぷり使ったこの豚汁も大人気でした！

こんな大きな釜で造られた豚汁も、あっという間になくなっていましたよ。野菜の甘さでしょうか、甘い味のお汁は、癖になりそうな美味しさでしたよ♪





テラスから突き出しているこの木は「鹿野の風プロジェクト」様によって送られた木なんです。昨年、テラスが完成した頃はもっと細く、頼りない印象でしたが、少しずつ高く、太く育っていましたよ。来年の山開きでは、もっと立派な姿を見ることができそうですね！

樹木



13回目も晴天の「鹿野市」！



えーる！
発行：まちづくり応援団えーる

「むぎめし町」は今も賑やか♪

晴れた日は、半袖でも暑さを感じる毎日ですね！

今月号の「えーる！」では、13回目を迎えた「いっておかえり鹿野市」の様子を追いかけてみたいと思います。

ところで、かつてこの鹿野市はなんと呼ばれていたかご存知ですか？答えは、右にもある「むぎめし町」です。

下の写真（かつて鹿野市に展示されていた写真を撮影させていただいたものです）をご覧ください。道の真ん中に、潮音洞から流れる水を流す溝がありますよね。

麦粒は、精白しても真ん中に溝ができるのですが、この溝を麦の溝になぞらえて「むぎめし町」と呼ぶようになったんですって。



そんな「むぎめし町」の今に足を運んだのは20日のお昼頃。会場にはパンやコーヒー、空き缶加工や焼きそばなど、お店がずらりと並んでいましたよ。すでに食事はほぼ売り切れ状態で、鹿野市でお昼を食べようと思っていたわたしはびっくりでした！

空きっ腹を抱えながら、「むぎめし町」は今でもたくさんの人に愛されているんだな、としみじみ思いました。

たっぷり、音楽

鹿野市会場に足を運んで感じたのは、音楽があることでした。左の写真にある上市自治会館をはじめ、会場のあちこちでバンド演奏があったんです。

これまでの鹿野市でもバンド演奏はありましたが、よりにぎやかに、皆様の目に触れるようになっていたと思います。今回は2日間で12のバンドが素敵な音楽を披露されていましたよ。

よく知った曲を演奏するバンドさんもいて、思わず足を止めて聞き入ってしまいました。音楽があると、会場がにぎやかで楽しくなりますね♪



スッキリ、鹿野茶



すっかりおなじみ、山口県立大学の学生さんによる「鹿野茶」の試飲販売も行われていました。

今回の鹿野茶は金峰産の鹿野茶でした。晴れてとても暑い中で熱いお茶を飲んだのですが、スッキリした渋みの強い味のおかげで、熱さを感じず飲み干すことができましたよ。

今でこそ気軽に飲めますが、鹿野茶は江戸幕府に献上されていたほどの銘茶です。さすがのブランド品、今でも品質は色あせていないんですね。

チャレンジ、陶芸

鹿野町商工会横では、鹿野陶芸教室の皆様による作品が並んでいました。

鹿野陶芸教室さんは平成23年に一度取材させていただきました。幅広い年齢層の方が参加し、思い思いに陶芸を楽しんでいる教室なんですよ。

鹿野陶芸教室は、旧母子センターにて毎月第2日曜日に開かれています。趣味を増やしてみるつもりで、参加してみませんか？

興味のある方は、田中さん（０９０－１６８９－３４９２）までお問合せくださいませ。



第二の鹿野市!?



鹿野市の2日目である5月20日には、大田屋さんの敷地内で「青ＳＯＲＡプチ・マルシェ」が開催されていました。

今回初開催のマルシェですが、鹿野だけではなく、市外からも出店者がいらっしゃるなど、今後どんどん大きくなっていきそうな予感を感じました。

食事のほか、革細工や犬用の服など、普段お目にかかれない物がたくさん並んでいましたよ。

ぜひ、２回目も開催してほしいと思います！

夏の山野草を訪ねて



えーる！
発行：まちづくり応援団えーる

夏のエキに吹く涼風と「ホーホケキョ」

とても暑い毎日ですが、皆様はお変わりなく過ごされていますか？

今月号の「えーる！」は、そんな暑さを少しでも避けられそうな場所をご紹介いたします。涼を取る、と言うと川を想像するところですが、今回はあえて、山を訪れることにしました。

石鍋工業団地そばにある、故・伊藤芳高さんがたった一人で17年かけて作り上げた「山野草のエキ」。春のエキは何度か紹介しましたが、今回は、夏のエキを紹介するために、足を運んでみました。

取材日は30℃を超える気温にも関わらず、木々の生い茂るエキの中に足を踏み入れてじっとしていると、十数メートルはあるのではないかという木々が作る日陰の下、汗をかいていると肌寒さを感じるほど涼しい風が吹き抜けていきます。

春に訪れたときは静かな場所と思っていましたが夏になるとセミの鳴き声でいっぱい！　そんなセミの声に耳を傾けていると、「ホーホケキョ」という鳴き声……そんな鳴き方をするのはウグイス以外にはいません。ウグイスは春のイメージが強い鳥ですが、夏まで鳴く鳥なんですね。

季節が変わるとガラリと印象が変える山野草のエキに、是非足を運んでみてくださいませ。



エキの入り口では、エキの説明とともに、在りし日の伊藤さんを見ることができますよ。

エキを歩くと……



「山野草のエキ」の入り口は、以前は単に山へ入るための橋がかかっているだけでしたが、今ではベンチやテーブル、そして現地のマップや今咲いている花の紹介など、たくさんの物が設置されています。３００種類以上の山野草が植えられた場所ですから、こうした情報がわかると、とても便利ですね♪

先に紹介した伊藤さんの写真が載っているエキの紹介看板も、こちらに設置されています。







涼しさや、聞こえてくる音を紹介させていただきましたが、エキの主役はもちろん山野草です。７月に訪れたときは、あまり派手な色の花はありませんでしたが、淡い色合いの花があちこちに咲いていて、緑ばかりの夏のエキを彩ってくれていました。

また、伊藤さんが設置された山野草の名札はそのままに、新しく立派な名札もあちこちに設置されていました。今までよりももっと、この場所を訪れる人たちに親切な形で、山野草のエキは進化していっているんですね。



この場所がこうした居心地の良い山になっているのは、ひとえに保全活動を続けている「山野草のエキ」保存会の活動のたまものだと思います。

そして、この保存活動を支援する企業・団体も、少しずつ増えてきています！　協力企業・団体さまの名前は、左の写真のような看板や、植物の名札、ベンチなどにも記載されていました。誰もが知っているような有名な企業の名前もあり、たくさんの人の力が、このエキを守っていっているんだな、ということを感じました。エキは大切な鹿野の宝物。この場所を、これからも守っていきたいですね。